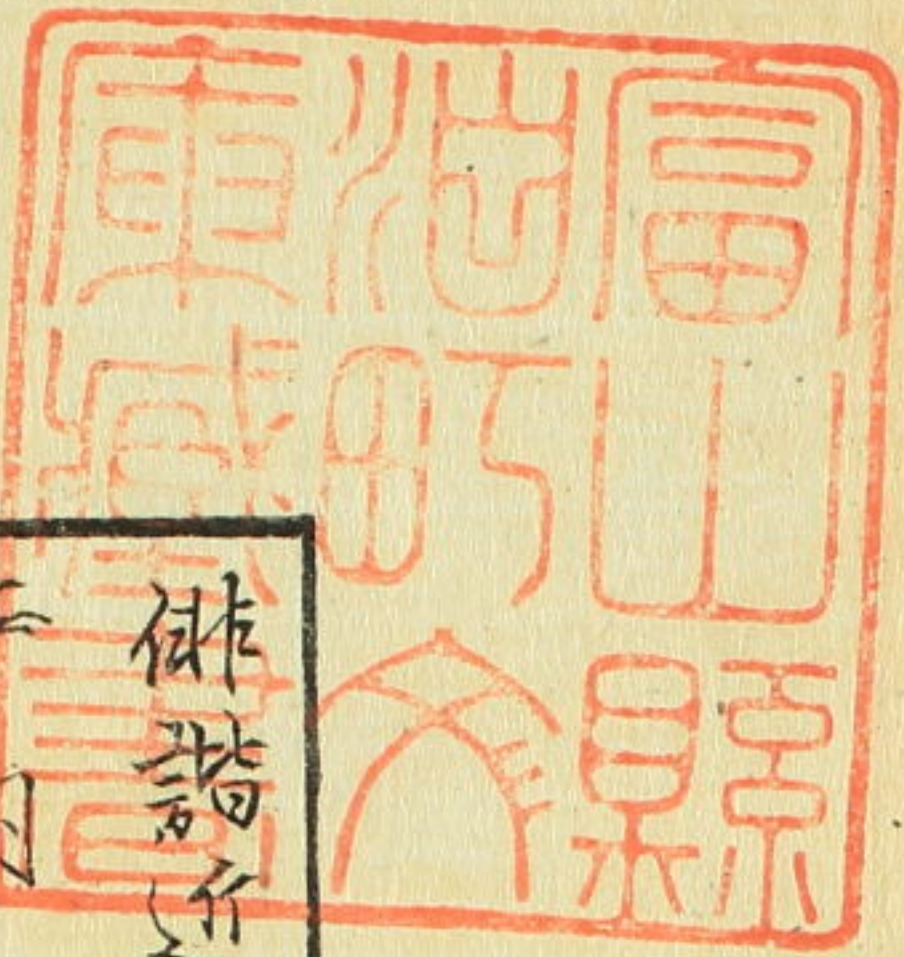


龍溪書畫句疑集  
卷



龍溪書畫句疑集  
卷





俳諧近世發句類題集春部目錄

正月	元日	立春	今年	明日	夜
子代の春	宿の春	花の春	老の春	女の春	初の春
高の春	初日	初夜	古川の春	新降	星佛
いねの春	虫の春	鶴の春	初夢	室の春	三日月
蓬萊	初曆	福壽の春	屠蘇	福の春	福の春
難波	若餅	太箸	御笠	心の春	年玉
門餅	江邊庵	穂俵	心の春	松の春	松の春
福曳	菊の春	傀儡師	粗の春	羽子の春	人日
子日	小松曳	若菜	芥	菖	六草

たひゞ 鈴菜 左義老 倭曉 卯枝 鶯枝 廿  
御忌 養父 甲 木芽 草花 十 萱  
若草 春草 去草 蒲公英 土 菊 花 芦芽  
葛花 葛花 芥子若菜 花之 藍花 土  
葛花 梅 三 柳 若翠 土 鶯 百子鳥  
余寒 春寒 佐保姫 土 東風 沫雪 春雪 土  
二月 如月 大根花 茄子苗 油苔 鳥竿 土  
二月 如月 二日安 初午 以ん 六 西ひ忌  
涅槃 青麦 春風 殘雪 雪間 土 雪解  
長閑 橘 紅梅 平 榎木 指木 畑打

春目一

田打 苗代 水口系 土 山焼 臈夜 春夜  
臈月 廿 春月 八市乃小 系極 出代 廿 田氣化 成納  
夏鶉 鳥吏 鳥巢 雀子 燕 土 蝶  
蛇 蜂 猫代 魚 蛙 墓 田堀  
小鳥 雀 雲入鳥 共 雲雀 雉子 曳鴨 取雁 七  
春乃 春乃 初虫 若船 舳輪 共 白魚  
二月 中 魚 共 曲水 草餅 蓬餅  
菱餅 桃竹 汐子 蛤 平 蛭 滿壳氣  
奇居虫 飯鞘 蕨鱒 蟹 土 孕産 落角  
春野 春山 春川 春水 土 春満 春夏 土 三

喜此露	別是露	春靄	春空	春日	世
牡丹	初春共	佐久良	系揚	八重揚	蓬草
初花共	共梨花	海棠	辛夷	杏花	
木蓮	馬蹄花	欵冬	菖蒲	木丸	
浮	沉下花	梅	三連翹	席杖	
さいふ	又百花	梅草	葛糸	葎糸	水草生
洋生	蛇穴出	寒食	炉塞	三竹	春草
春草	夏迄	三春	三春	三春	

春目一

俳諧近世談句類題集春部

江戸雀堂來曾編

正月

正月やわさし山形舟神り月乙二  
 正月のふりしる花のしらけ舟  
 正月やおのちのちあすあす  
 春の露正月ものねむり  
 正月や且燈布周のにたき  
 正月や七日のちのちあす  
 青草

え日

五春

えりり電り上りるるるに 完未  
 えりり地りりるる神の鈴 雪雄  
 えりり地りりるるるるる 三浦人  
 えりり地りりるるるるる 尚亦  
 えりり地りりるるるるる 素燦  
 えりり地りりるるるるる 木僊

まじりり梅とさしる指と先 士朗  
 まじりりるるるるるるるるる 素燦  
 まじりりるるるるるるるるる 一茶

春

一春

り地りりるるるるるるる 午心  
 り地りりるるるるるるる 丘高  
 り地りりるるるるるるる 養亭  
 明矣 りの美 夜の春  
 石より其のりりりりりりり 美紀  
 今春の春りりりりりりり 丘高  
 えりりりりりりりりりりり 井眉

千代の春 かの春  
 人りりりりりりりりりりり 貞照

花の来  
初春

花の来  
初春

花の来  
初春

春二

初春  
花の来  
初春

清輝 早佛

御降りものたさるるままささおお 定未  
月つき乃の初はつふふのの女を一ひと是こはは 三さん夜や  
いい初はつつつ正せい

二百にひゃくもも初はつつつ正せい穂ほままりり  
のの初はつつつ正せい維い子しとと母ははのの松まつ五ご明めい  
書しよ初はつここいい初はつ

書しよ世よかかたた報ほうももああららななややああ観かん 三さん子し六ろく  
松まつゆゆももままいいおおああののままたたいい初はつ 初はつ美み  
初はつ夢む 空くう舟ふね

いい夢むかかおおああいいほほもも花はなのの鳥とり 護ご為ゐ

春 三

いい夢むかかいいととああままいい高たかののややとと 年ねん心しん  
わわららいいををししここももああららしし 齋さい舟ふね 照しょう堂だう

三さん日にち

ふふのの鳥とりおおいいいい持もち三さん日にち 定じやう未み  
三さん日にちたたららぬぬ胡こ店てんたたららけけ 冥めい初はつ  
三さん日にち減げんるるままああららしし月つきのの書しよ 初はつ美み  
人ひとをを一ひと後ごいいいいここのの書しよ三さん日にち 菊きくはは女にょ

遠とほ草くさ 三さん日にち書しよ

遠とほ草くさやや我われはは百ひゃくのの草くさ一ひと草くさ  
人ひとのの遠とほ草くさのの草くさりり林はやしのの水みづ 秋あき草くさ

蓬萊の若野のまん丸のせり 菖三

くくくくくくくくくくくくくくくくくく 本美

福壽草

妙山もくくくくくくくくくくくくくく 菖三

福壽草のまん丸のせり 大足丸

若蘇 福壽 福わー

唐蘇のまん丸のせり 水國の声 乙二

松のまん丸のせり 福あは 未曾

星小社 福わー 成美

雜草 まん丸

とくくくくくくくくくくくくくくくくく 舟に  
乃の餅やまん丸の梅の丸 一茶

大著

大著の丸一挺のむくくく 小知

大著の丸一挺のむくくく 茶丸

大著の丸一挺のむくくく 茶丸

師ま づら

鯉の丸一挺のむくくく 三千六

隣りの丸一挺のむくくく 午心

づらや丸一挺のむくくく 定素



年玉

我若やその由玉毎の一角  
由玉の利を以てしむる本意  
由玉や文珠に非ず、終に  
心

つ勝 位連のまかり

肉の指の處も亦も一つ  
山ねとふくく一し  
信連のまかり其山に  
終に  
木倦

積徳

春五

つ松

わくまのやまのやふは  
つ松  
つ松の隣もあはれ海り音  
布座

松の内

そのまのやまのやふは  
松の内  
士朗

松

松取く人のつまを  
号舟の子傍る松も  
大に在  
三千六

福曳

福引りつゝあふかきまの佛 大に丸  
福曳やあけしやうらつゝり雪 午心  
福川にむむたうゝゝゝゝゝの夢 季獲

萬歳

あふや旅重たのやうな世に 三千六  
あふ歳よ白髪くゝゝゝゝかゝゝ山 午心  
万才もやゝゝゝゝゝの 敦南 乙二  
橋掛ゝる万才りゝゝ山 椿半  
萬歳を雪を拂ふゝゝ神 鷹雄

傀儡師

襟鳥ゝりつゝまゝゝゝゝの 傀儡師 玄陸  
青柳ゝゝ傘むゝゝゝの 傀儡師 月春

粗久 羽子

松陰や猿ゝたゝゝゝゝの 猿也 干當  
あふあふゝゝゝゝゝの 猿也 一茶  
あふあふゝゝゝゝゝの 猿也 貞徳  
羽子つゝやあゝゝゝゝの 猿也 素迪  
羽子板ゝ浦ゝゝゝゝゝの 猿也 完未

人日

人乃日竹我春月山乃上 吳光  
 人の日竹女の年一砂より一の 葛三  
 人乃日竹山の山乃の形乃なまん 完来  
 子日 小松使

この世をなかりなかりの人の日 葛三  
 子乃日竹の形乃のやめりのまき寺のつ 朱美  
 そく知りの江き色り子日乃乳 三子  
 杉乃ん子乃まつゝ里乃子日乃 素際  
 去盡くくものく小春乃子日乃 茶礼  
 小松使の梅乃なまらりきまき乃乃 三子

春七

子日くひくゝ小松を藤乃とひ乃 横也  
 葛三

老乃つひひのまきと人乃まゝひひ 士朝  
 仁和寺乃おんは折ひり乃乃乃 雲雄  
 去乃くゝ玉折乃まき乃乃乃乃 三子  
 七乃乃の折乃乃乃乃乃乃乃乃 〃  
 鶴乃入乃え乃乃乃乃乃乃乃乃 景兆  
 まき乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 貞操  
 小乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃 篤光

昔

葦

以我ののこ古鳥帽子とて芥は又 完表  
 芥花と出しかか露の極まり 乙二  
 あれは山と終る川に松芥が 一葉  
 くらぬまたとまを芥とむと形 雪雄  
 款くもの中にちやうと葦が 乙二  
 後投くあつとこをや葦とて  
 ちやうとせぬもの葦のありて 葵亭  
 昔のさかき葦の川と月と後 士綱  
 昔のさかき葦の川の廣のさかき 三千彦

春八

七草

七草ののこ古鳥帽子とて芥は又 完表  
 芥花と出しかか露の極まり 乙二  
 あれは山と終る川に松芥が 一葉  
 くらぬまたとまを芥とむと形 雪雄  
 款くもの中にちやうと葦が 乙二  
 後投くあつとこをや葦とて  
 ちやうとせぬもの葦のありて 葵亭  
 昔のさかき葦の川と月と後 士綱  
 昔のさかき葦の川の廣のさかき 三千彦

白くもくもくあつた。 三十九  
たつた。 三十九

たつた。 三十九

たつた。 三十九

たつた。 三十九

卯杖 卯杖

卯杖。 三十九

卯杖。 三十九

卯杖。 三十九

卯杖。 三十九

卯杖

卯杖。 三十九

卯杖。 三十九

卯杖

卯杖。 三十九

卯杖。 三十九

卯杖。 三十九

卯杖

卯杖。 三十九

卯杖。 三十九

日くくはなきしんわの所たか 三六  
ひんきんわ一節の所たか 三六

木芽

木の芽はかきふらふらと出たり 乙二  
階子とらぬき芽はけり 威美  
桐の芽はけり 一葉の枝は 三六  
子崩

まろ崩 晦る芽はけり 三六  
まの芽はけり 三六  
まの芽はけり 三六

草

草はかきふらふらと出たり 山 未考

新

草はかきふらふらと出たり 三六  
草はかきふらふらと出たり 三六  
草はかきふらふらと出たり 三六  
草はかきふらふらと出たり 三六  
草はかきふらふらと出たり 三六

春草

草はかきふらふらと出たり 三六

おのりなむらさき 音入

かきくさ 七羽

くさくさ 七羽

くさくさ 七羽

くさくさ 七羽

蒲公英

たぐりなむらさき 乙二

蒲公英や草千のふりて 字欠

たぐりなむらさき 午心

春上

たぐりなむらさき 至馬

茅花

小島本や解たす 乙二

はなはなむらさき 月加

ふらふらのむらさき 葵亭

芦芽

ふらふらのむらさき 士羽

芦芽やむらさき 成美

葛藤 甘茅

葛藤やむらさき 三子欠

花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 堂英  
菊の芽のつゝ 赤き花のつゝ 土明  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ

花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 堂英  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 土明  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ

花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 堂英  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 土明  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ

薔花

花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 堂英  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 土明  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ

梅

花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 堂英  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ 土明  
花の芽のつゝ 赤き花のつゝ



山ろりのやまをこゆるとて梅のし二  
 ありてくはる梅のつゆが 茂介  
 いしんついでに梅の心 素傑  
 に丑刻のまきけりて梅の心 葛三  
 まりての梅のまゆらん 卓池  
 梅北へ戻りてまひよらば 一  
 梅の月階子とありてまきけり 一榮  
 何とて母の梅をいしんつゆが 午心  
 いちまゝにまきけりて世のふ梅を 冥松  
 云々々々々々々々々々々々々々々々 梅の心 完末

春 十一

柿

山川や花を投てし梅の橋 雪雄  
 長き山なまきけりて梅の心 乃和  
 梅のちや新のぬきりのまきけり 三徳人  
 山々の風をいしんついでに 貞傑

昔柿のちやまきけりて梅の心 し二  
 昔柿のちやまきけりて梅の心 月夜  
 昔柿のちやまきけりて梅の心 士綱  
 昔柿のちやまきけりて梅の心 橋中  
 鶴の面のまきけりて梅の心 三六

青柳一面出 女鳥外 本美  
柳さきう柳とわさうり 屋鳥  
移さきか柳るらな 又 柳 可  
然のほろそいあみ柳 照南  
青柳へしななるあさ 完美  
美か女

鶯

いこま研とわたのいこま 士朗  
いこまのお家いり 冬代 乙二  
いこまの屋根うたうる 畠代 景元

春 十五

いこまのいこまのいこま 可成里  
いこまのいこまのいこま 三子大  
いこまのいこまのいこま 本美  
いこまのいこまのいこま 完美  
いこまのいこまのいこま 牛心  
いこまのいこまのいこま 士朗  
いこまのいこまのいこま 寒松  
いこまのいこまのいこま 木僊  
いこまのいこまのいこま 井眉

百中鳥

遊中六月日、城を渡る予は 櫻堂  
余寓

尸體のついでに 櫻堂の士朝  
金もいも出さず 歩むる月夜 景記  
も春の身は ひとまき 完未  
海光細く せ海流の かな さま

ま 櫻堂  
みねの 櫻の ころも さま 三六  
ありく ありく ありく ありく 櫻堂  
作保姫

春 十五

佐保姫より 白く 櫻も 隔たり 成美  
たのみの 野より くる 小幡 三六  
未也

未也  
未也 櫻の上より くる 心  
し 櫻の上より くる 心  
し 櫻の上より くる 心

春 櫻  
美の 櫻の上より くる 心 春 櫻  
美の 櫻の上より くる 心 春 櫻

海に... 白鳥... 春の霞... 舟... 雪雄...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

春十女

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

榮光

...  
 ...  
 ...

大板元

~~~~~大板元~~~~~花の香 枝美

菖蒲

~~~~~菖蒲~~~~~花の香 對竹

~~~~~菖蒲~~~~~花の香 未嘗

海苔 烏草

~~~~~海苔~~~~~花の香 乙二

~~~~~海苔~~~~~花の香 乙二

~~~~~海苔~~~~~花の香 乙二

香 七

二月

~~~~~二月~~~~~花の香 乙二

~~~~~二月~~~~~花の香 乙二

~~~~~二月~~~~~花の香 乙二

~~~~~二月~~~~~花の香 乙二

如月

~~~~~如月~~~~~花の香 乙二

~~~~~如月~~~~~花の香 乙二

二月

~~~~~二月~~~~~花の香 乙二

完素

山〜〜〜〜〜二り各一草  
初年

〜〜〜〜〜穀隣三六  
初年〆架〜〜〜仙〜  
完集

彼者

〜〜〜〜〜彼者  
當三  
山〜〜〜〜〜  
蒼丸  
華〜〜〜〜  
卓池  
西〜〜

書六

本所〜〜〜〜〜  
士胡

新〜〜〜〜  
完車  
〜〜〜  
牡丹  
〜〜  
棟半  
〜〜  
果丸

昔者

〜〜〜〜〜  
玄桂  
〜〜



榎

月... 榎... 乙二  
度村や榎の... 田... 三十一  
朝の... 折榎... 三十一  
村... 榎... 未嘗

紅梅

紅梅乃... 乙二  
紅梅... 二... 定素  
紅梅... 寒...  
紅梅... 士嗣

春二

榎

紅梅... 乙二  
榎... 乙二  
榎... 乙二  
榎... 乙二  
榎... 乙二  
榎... 乙二

榎

榎... 乙二  
榎... 乙二  
榎... 乙二  
榎... 乙二  
榎... 乙二



細寺

まゆ戸紀乃物寺の歌  
まゆ寺の清のまゆ物  
まゆ

鶴島の山母の山母  
まゆの月あつと回寺のまゆ  
岳

苗代 木口

稲多の山崎卓の苗代の山母  
まゆの山崎卓の苗代の山母  
止鏡

まゆ山や子細あつたけの鏡捨  
まゆの山崎卓の苗代の山母  
山依り草のまゆの山母  
まゆ

おららおら人形の子細あつたけ  
まゆの山崎卓の苗代の山母  
まゆ

まゆの山崎卓の苗代の山母  
まゆの山崎卓の苗代の山母  
まゆ



善の自に... 宛来

陽炎 台座

陽炎... 成美

出代

出代... 一茶

出代... 玉光

田鼠化城鴉 麦鶴

春 廿三

鴉... 成美

... 丸明

... 寒松

鳥文

... 三幸夫

鳥景

... 成美

... 高三

... 宛来

雀子

雀子や大名の路人たぐり  
大に丸  
園るのいしんちなる子雀の子  
三六  
父母乃ありのむ行くと  
雀  
士羽  
子とさる雀の芳のゆく  
乙二

燕

燕のうねつさあふし  
成美  
し鳥や更し  
の徳  
山  
夕燕  
一景  
釋  
杖  
士羽

春 廿四

蝶

乙鳥のま〜  
蝶  
成美  
蝶  
下  
の  
蝶  
日  
初  
く  
成  
美  
蝶  
や  
さ  
し  
う  
の  
橋  
三  
六  
不  
ろ  
く  
と  
さ  
る  
は  
う  
の  
名  
さ  
蝶  
、  
り  
先  
に  
千  
列  
は  
れ  
た  
ま  
飛  
ぶ  
不  
真  
眼  
つ  
ま  
ま  
〜  
と  
ま  
は  
蝶  
の  
蝶  
と  
も  
士  
羽  
心  
を  
ふ  
ま  
ら  
う  
蝶  
の  
ま  
ら  
う  
も  
井  
眉  
蝶  
向  
一  
名  
二  
乃  
飛  
ぶ  
ま  
ら  
う  
三  
六  
蝶

蛇

蝶

猫  
乃虫

つまはくしつうの比や白の甲 乙二  
 越のあらまゝぬ人の社にほ 完集  
 山鳥〜しつうの比や白の甲 士羽  
 との産核の定うなむは梅の虫 三光  
 昔ありしつうの比や白の甲 卓池  
 虫のけは梅もきき〜きき〜の月 椿半  
 虫梅と冬梅のきき〜の月 野渡  
 虫梅の環〜つうの比や白の甲 井眉

蛙

春

海苔のつうの比や白の甲 乙二  
 梅の種と粒のつうの比や白の甲  
 昔ありしつうの比や白の甲 士羽  
 つまはくしつうの比や白の甲  
 虫のけは梅もきき〜きき〜の月 三光  
 昔ありしつうの比や白の甲 椿半  
 月夜のつうの比や白の甲 野渡  
 虫のけは梅もきき〜きき〜の月 井眉  
 陸のつうの比や白の甲 卓池  
 人の社にほぬ人の社にほ 完集  
 つまはくしつうの比や白の甲 乙二

暮

暮のゆく車輪を留る暮は 暮れ  
あまのくさくのささくれとて 古胡

因 撰

足る事いと足りぬ 西郷の饒兵衛、  
あそびの果のこゝろ 船の國の 午心

小島 雲入島

昔の心な 齋のくさの島は 三つを  
一 故よりいそいそとあそぶ 昔三  
まうとて あそびのこゝろは 島

春廿七

美行

いそいそとあそぶ くれの暮をたどるし 暮三  
わすれぬ 昔の心な 齋のくさの島は  
いそいそとあそぶ 昔三  
あそびの果のこゝろ 船の國の 午心  
あそびの果のこゝろ 船の國の 午心  
あそびの果のこゝろ 船の國の 午心  
あそびの果のこゝろ 船の國の 午心

あそびの果のこゝろ 船の國の 午心 成美

何れも一はなきくまの存  
おのれも一はなきくまの存  
年心

まの身

まの身とくまの身とらんむらり  
三年  
ちやうくふまの都をのまのま  
三年

初雷 若鯨 鮫鱈

と川初るまの雷りまの青  
年心  
あしまの雷あしまの雷  
奇剛  
鮫鱈も凡ちる春に他り  
年心

白魚

春廿八

雲雀

山にさるるまの雲雀  
年心  
しよりの海追ふ白魚  
昔  
しよりの海追ふ白魚  
昔

雉子

園にさるるまの雉子  
年心  
まの身とくまの身とらんむらり  
三年  
雉子の身とくまの身とらんむらり  
三年  
雉子の身とくまの身とらんむらり  
三年

眞北へ松原ははねるのふ  
成美  
乙二  
此のふはねるふ先の日出は恒  
當三  
電鴨

庚子のふはねるふ先の日出は恒  
三子  
山田と陸奥のふはねるふ先の日出は恒  
乙二  
帰宿

乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子  
乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子  
乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子

善

三月  
白魚り身よりぬき令下り  
士朗  
乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子  
船や十と一と心もまの舟  
寛松  
白魚り身よりぬき令下り  
士朗  
乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子

三月  
乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子  
乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子  
乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子  
乙二のふはねるふ先の日出は恒  
三子



雜

くらねのたてしむる  
 三六  
 をくさるる心はけり  
 昔に  
 花とてはまきもふた  
 草也  
 ありしをいふ  
 可也  
 能の目も其をいふ  
 乙二  
 者もいふも能の  
 士胡  
 能のやるる  
 三六  
 昔もいふ能の  
 三六  
 年、いふら  
 三六

春九

曲

木の奥より日ありて能く  
 三六  
 我らうらむる能の  
 井眉  
 山うもすに日あり能の  
 士胡

草

曲の口をさるる能く  
 寒松  
 曲ありて能く  
 午心  
 草解 蓬解 菱解  
 三六  
 松ゆもたまに能く  
 午心  
 変へては能く  
 子孫

枕日

枕入る馬よりをを抱かぬ 昔三  
櫻の日く出く笑り水不茶増茶 三三  
櫻の元り一をすもはつる一

けり

るるより少ぬきをりけり 成美  
は常と後くくをりけり 三六  
新風のたのらふやとけり 三六人

吟

とてのり乃肥くは浦の雨 屋鳥

春三十

現

こころの現をくく夢みよの 三六  
川現をくく園し十五日 寛松  
雲崎り睡回もや現をく 標也  
海老流

こころの現をくく海老流の口 雄剛  
本芽くゆもくくややの天 巨春  
寄舎屋

はるのり一月の春茶のちのち 士胡  
あまのりくくはるの寄舎屋 標也

飯

三月のちやあかしの宿い夕月夜 季獲

飯 朧 蠶 蝶

三月のちやあかしの宿い夕月夜 季獲

琴

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

乃子鹿 夜角

奈とくともあかの宿い夕月夜

春野

角子鹿のちやあかしの宿い夕月夜

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

まへ

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

松竹のちやあかしの宿い夕月夜

おのりしりけきへんきし 完美

春川 まるまるの海さるにわかたかき 成美

きき骨の何れかへんききき川 仙露

春中

花おはぬのさるなるまのさ 成美

まのさるにわかたかき 三千六

まのさるにわかたかき 完美

山さるにわかたかき 三人

けしきさるにわかたかき 成美

春海

おのりのあつらふにわかたかき 成美

おのりのあつらふにわかたかき 成美

おのりのあつらふにわかたかき 成美

西とくさるにわかたかき 白池

まのさるにわかたかき 茶丸

おのりのあつらふにわかたかき 成美

おのりのあつらふにわかたかき 成美

春西

おのりのあつらふにわかたかき 成美

春雨やぬすてては馬ぐ二日棲  
 馬よりぞう消く春雨よかきり  
 春雨やあつたふらふ海のはら  
 ころぬふゆきの舞いあけをまの雨  
 三三六  
 春雨らむち敷か山り形士組  
 春雨や他のもじり春の春  
 春の馬のけしきなき人子降  
 定ま  
 ころのる平山ははかの鳴ひ  
 まつ雨ち雪のふせり馬の舞  
 春雨や親くもよもいなりの松  
 丘高

春の夜

春の夜はあつたふらふ馬の鳴ひ

別編

春の夜はあつたふらふ馬の鳴ひ

春の夜

春の夜はあつたふらふ馬の鳴ひ

春の夜

春の夜はあつたふらふ馬の鳴ひ









八音禱

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

初花

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

光

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ

ハタチニハシラセヨト云フニハ  
シラセヨト云フニハ



花の枝に梅の香をたると 寒松  
 一ひらきわたる花の影に 千歌  
 舞の香を花の影にたると 千歌  
 花の影にたると花の影に 井眉  
 一ひらきわたる花の影に 三浦人  
 花の影にたると花の影に 完末  
 花の影にたると花の影に 成美  
 花の影にたると花の影に 乙二

花の影にたると花の影に 三才夫  
 花の影にたると花の影に 士綱  
 花の影にたると花の影に

梨の花

花の影にたると花の影に 完末  
 花の影にたると花の影に 千歌

海棠

海棠の香をたると花の影に 屋鳥  
 海棠の香をたると花の影に 完末

辛夷

山からいりてくるはるかなる幸夫が 三十九  
藤巻のりゆのゆきとく幸夫 三十九  
春の 木逢

佛供もあつたや京の 三十九  
とくくと木逢のゆく西のふ 太阜  
馬酔木花

備の墓もか甘酒して酔ひ 三十九  
子細く標りてくる馬酔木花 恒丸  
昔

はるかなるはるかなる湖のゆく 士胡

春 三九

酒のなまかなるのゆく 乙二  
ゆきおのりてくるはるかなる 葛と  
有るはるかなるはるかなる 三十九  
はるかなるはるかなる 士胡  
はるかなるはるかなる 標も  
はるかなるはるかなる 乙二  
はるかなるはるかなる 堂奥  
はるかなるはるかなる 三十九  
疑  
やあはるかなるはるかなる 三十九

毎

上  
 下  
 左  
 右  
 中  
 前  
 後  
 内  
 外  
 上  
 下  
 左  
 右  
 中  
 前  
 後  
 内  
 外

春四十

木瓦

上  
 下  
 左  
 右  
 中  
 前  
 後  
 内  
 外  
 上  
 下  
 左  
 右  
 中  
 前  
 後  
 内  
 外

脚

かのちんりし梅はあはら  
 七  
 謝婦としはるる國の梅は  
 一  
 沈下梅は茶梅  
 何れも春のさきさき  
 一  
 古桶や二文梅は花の  
 一  
 茶梅はあはらと梅はあはらの  
 一  
 道魁

我、春の道魁はあはらの梅は  
 對行  
 道魁の梅はあはらの梅は  
 茶梅

岸杖の梅

岸杖の梅はあはらの梅は  
 一  
 岸杖の梅はあはらの梅は  
 一  
 岸杖の梅はあはらの梅は  
 一  
 岸杖の梅はあはらの梅は  
 一

川あはら梅はあはらの梅は  
 一  
 我國の梅はあはらの梅は  
 一  
 梅はあはらの梅は  
 一  
 梅はあはらの梅は  
 一  
 梅はあはらの梅は  
 一

水子生 岸生

月と夏と雁と小鳥と花と

けりて 岸生と方とてしつゝ 舟 長安

蛇穴出

蛇穴とてしつゝ 通つては 舟 竹馬

寒食

さかたに 舟生とてしつゝ 舟 寒食

さかたに 舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生

舟生とてしつゝ 舟 寒食

春 白

行春

舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生とてしつゝ 舟 寒食

舟生

山の井に下りぬ。さしはるのさゆか 士詞  
おとあひのこいゆりもまろの志持や  
白拍子とていけりまろの余はは 可歌集

善借

美州とあらりあつちうひ子 月右  
まおし馬方鬘籠くあくもれ 井眉

夏直

ま直くたろ名旅傳の白拂傳 三千六  
井の宿の徳とれまのまろ 乙二

春暮

あはれの鳥のこいゆり 春 可歌集  
地へあふくはるのほれ 美の歌 三千六  
羅漢まのまのこいゆり 乙二

三月

まのこいゆり 春 可歌集  
まのこいゆり 春 可歌集  
まのこいゆり 春 可歌集

俳諧近世談句類題集春部 畢



